

江戸上下之刻、每度田中迄おくり迎に可參候。其刻者瀬尾權兵衛・竹下權平・山内傳左衛門、此三人壹人宛替々召連、其外川越之者貳拾人、若十村壹人相加、大づな以下用意いたし可罷出者也。

三月八日

ひぜん 御印

御眞筆

右川越廿人やといにて、遣候物よき程につもり候而、銀を早々可遣也。

二四 新川郡改作地入用之事

覺

一、新川郡開作地入用銀并作食米、開作之内は利なしに可取立事。

一、開作地入用銀、死絶人於有之者、其者之當り分は引捨可申候。殘百姓之手前に者かゝる間敷事。

一、作食米并敷借米は、田地に付候條、死絶人有之候は、跡田地請取作候百姓出し候様可相心得事。

右之通十村・肝煎・小百姓中に茂、急度可申聞旨被仰出所如

件。

承應元年十二月廿八日 御印

津田玄蕃

奥村因幡

山本清三郎殿

二五 改作奉行勸方覺

私共御用相勸品書上申帳

御郡中改作奉行 園田左七

一、毎年正二月、百姓持高に應人馬、野道具致所持、耕作仕入手づかへ仕儀無之候哉、十村組々吟味仕候。何とぞ尤之品有之、手づかへ申者御座候得ば、御算用場御奉行相談仕、米銀・貸渡、作用意致させ申候。常々耕作不精に仕、不謂公事沙汰を取持、勝手おとろへ、同名を茂引そこなひ申者御座候得ば、十村又村肝煎に申付爲致異見、其上同心不仕候得ば、毎々より御算用場御奉行致相談、百姓入替申儀も御座候事。

一、田畠植付仕廻、修理油斷不仕候様、替々致村廻、自然田畠やしなひ不足仕候得ば、百姓爲御介抱、百貫目御領銀

之内を以油糟・干鰯など買渡、暮に至代銀取立上申候事。

一、每年秋初、不作之地有之候は、申斷候様、十村組々申觸、日損・水損・風損など有之所申聞候へば、御扶持人・十村召連罷出、見立を以免相致用捨、百姓申分無之様に仕、納所無滞申付候事。

一、御算用日之外毎月一日・十一日・廿一日を改作日と定、百姓中に茂申聞置候故、用之儀御座候得ば罷出申聞候事。

一、百姓田地やりとり出入、正二月之内に承届、如跡々落着申付候事。

一、田畠新開仕度旨申斷候得ば、見届、入用銀を貸渡、又は用水普請を茂申付、爲致新開申候。大分之普請仕候刻は、相役人之内替々其所罷越申候事。

一、相役之内替々御郡を廻り、改作方無滞様申付候。其上手先に而急成儀御座候得ば、早速相調申ため、郡切に御扶持人・十村共、毎月日を定置寄合、輕儀は埒明申候。十村共心得として難申付儀は、御算用場御奉行・郡御奉行・私共へも申聞候。則御算用場より十村共寄合申所々、小算用之者高能少兵衛・増田半助毎月横目に遣之申候事。

一、村肝煎年寄候敷、又は病者に罷成、御用勤兼候得ば、遂吟味、別人立替申候事。

一、改作之儀に付百姓中に被仰渡品々、跡々之通毎年申觸候事。一季居之奉公人出替之時分、百姓之子共・兄弟跡々より奉公仕有之者、遂吟味、尤之品無之候得ば爲引込不申候事。

一、持高可致裁許子を持不申、死去仕百姓御座候得ば、其者之親類吟味仕、娘を持申候へば嫁を入申候。娘を持不申候得ば、死申百姓之女に入嫁を申付候敷、又は無遁者など養子爲致、何とぞ其之者之親類つゞき高裁許仕候様申付候。自然親類之者に可申付筋目之者無御座候へば、脇より入百姓申付候事。

一、御算用場の毎月隔日相詰、御郡之儀諸事相談仕候。御用有之時分毎日罷出申候事。

一、同所に而諸役人相遂御算用之儀、諸事存寄之通無滞様相談、御算用人に申渡候事。

一、同所に而御下行方并駄賃・宿賃割符之儀、存寄之通相談、無滞様御算用人に申渡候事。